

開所1年 県の自立センター421人利用

2007.6.18

就職せず、学校にも行かない「ニート」と呼ばれる若者の自立を手伝う「若者自立支援センター埼玉」（川口市）が開所から一年を迎えることから、県は14日、利用状況をまとめた。

これまでに若者421人がセンターを利用し、そのうちアルバイトも含め81人が就職した。

同センターにはキャリアカウンセラーや臨床心理士を配置。悩みを聞いたり、進路のアドバイスをするとともに、「電話のかけ方」など、就職のノウハウを訓練する。保護者の個別相談も受け付けている。

県雇用対策課によると、若者と保護者の利用件数の合計は先月末までに8604件に上る。登録した421人のうち、男性が76%を占め、利用者の八割が就労経験を持ち「自分がどんな仕事向いているのか分からない」「人間関係がうまくいかない」などの悩みを抱えている。

センター開所一周年を記念し、県は7月8日午後2時から、川口駅前市民ホール「フレンジア」で、若者の自立について考えるシンポジウムを実施する。

「若者はなぜ3年で辞めるのか」の著者、城繁幸氏ら四人がシンポジスト。

申し込みが必要。

問い合わせ TEL:048-255-8680